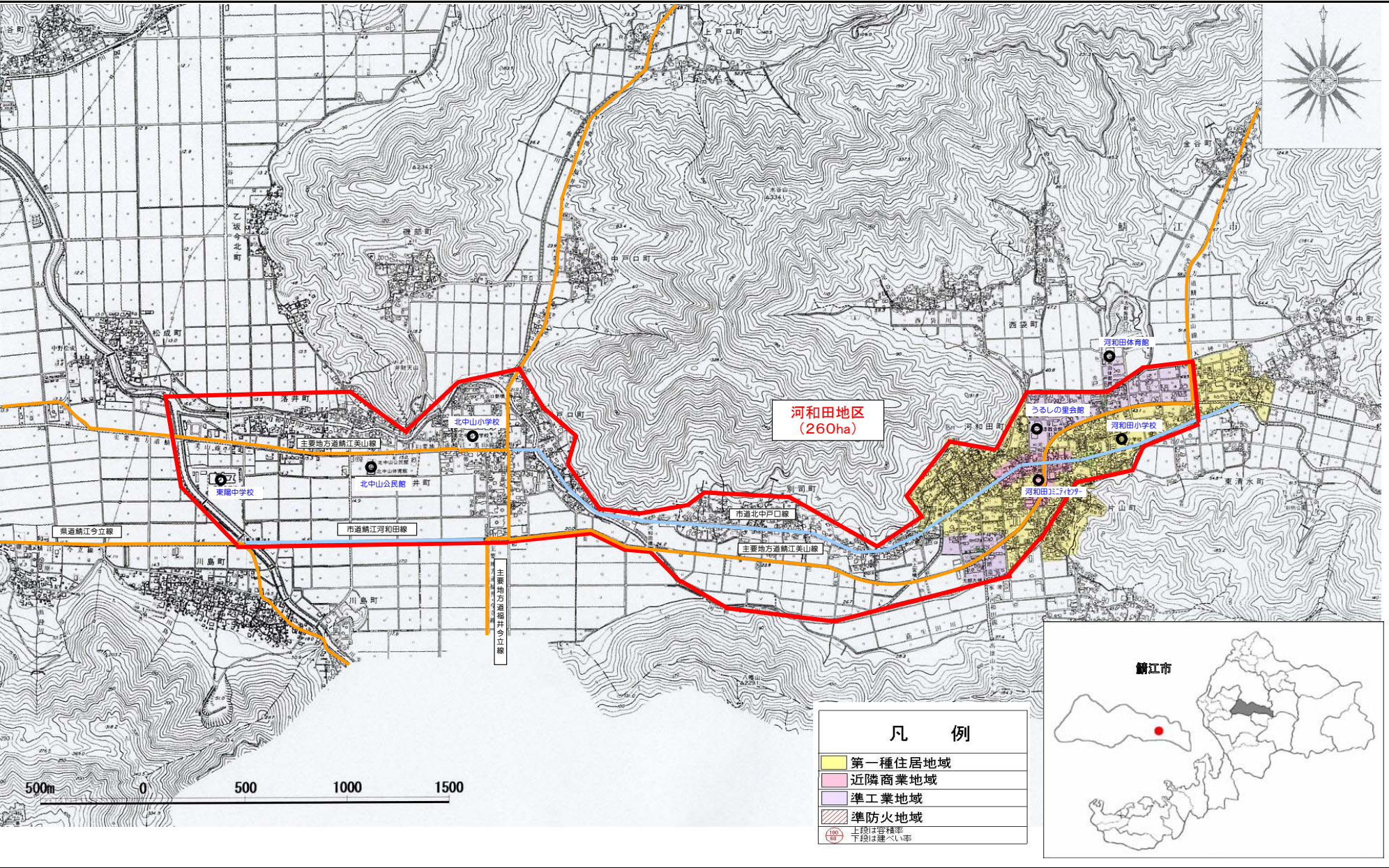


都市再生整備計画の区域

河和田地区(福井県鯖江市)	面積	260 ha	区域	鯖江市河和田町、北中町、西袋町、片山町、筋生田町、別司町、落井町、川島町、磯部町、戸口町の一部
---------------	----	--------	----	---



都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福井県	市町村名	鯖江市	地区名	河和田地区	面積	260 ha
計画期間	平成17年度～平成21年度	交付期間	平成17年度～平成21年度				

目標
大目標：H16年7月福井豪雨により壊滅的なダメージを受け早期の復興。 目標1：水害による家屋の損壊の復旧に伴い外装の景観を向上させ、伝統産業の地らしいまちづくりを図る。 目標2：街路等の整備改善により交通安全性、歩行者の快適性の向上及び災害に強いまちづくりを図る。 目標3：河和田地区の伝統産業である漆器を活かし、観光客を街なかに誘導することにより一層の地域振興を図る。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・市の基幹産業である越前漆器は1,500年余りの伝統を持ち、その主産地である河和田地区は、古来から漆器の里として栄えてきた。伝統の技術・技法に裏打ちされたその優雅さと堅牢さには定評があり、伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づく経済産業大臣の指定を昭和50年5月10日に受けている。主製品は碗、鉢、盆等の食器類であり、木地と本漆を使用した伝統の技術・技法に基づく手作業による製造に関しては、現在では木地から販売までの全ての工程を一つの産地内で行うことが出来る全国でも数少ない産地であることに加え、昭和期以降、合成樹脂製素地と化学塗料の利用による大量生産と低コスト化を実現し料亭やホテル、レストラン等で使用される業務用漆器の全国シェアの約80％を生産する一大産地である。しかしながら、長引く不況による業務用、一般消費者(家庭)用製品の販売不振に加え、消費者の生活様式の変化等により、産地の事業所数、従業員数、製品出荷額とも減少傾向にあり、時代に適応した新たな事業展開が求められている。今後も、国内他産地製品や外国製品との競争がさらに激化することが予想され、消費者ニーズへの迅速かつ的確な対応、異業種との交流等を通じた新商品の開発、品質や技術の向上等にこれまで以上に積極的に取り組む必要がある。 ・越前漆器産業の発展のためには新商品の開発および販路開拓を行うことにより産業の振興を図るとともに、文化の伝承保存の観点から伝統の技術、技法を保存し次世代に繋げていく必要がある。昭和55年に漆器産業の振興拠点として越前漆器伝統産業会館を整備し、ここを中心に各種の振興策を展開してきたが、生活様式や消費者の意識の変化に伴って、施設や設備も時代の要請に応えられなくなってきたことから、越前漆器伝統産業会館の改築に着手し、平成17年3月に竣工予定である。 ・越前漆器産業の振興の中核となる施設を整備することにより、うるし産業拠点としての機能を十分に活用した新商品の開発等を進め、消費拡大、販路開拓の促進が図られる。また、うるし文化育成拠点として、伝統の技術、技法が未来に残され貴重な文化が保存されることに加え越前漆器の魅力を全国に情報発信することで、越前漆器のイメージアップやブランド化が図られる。また、本施設を中心として観光や文化の視点を取り入れた地域づくりに取り組むことにより、越前漆器はもとより地域全体の総合的な振興、活性化が図られ「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」の産地が実現し、長期にわたる生産額の増大、雇用の拡大につながる。 ・当地区は「うるしの里づくり」を産地と行政が一体となって進めており、地域の活性化に資するため、越前漆器伝統産業会館を主会場として「うるしの里まつり」を開催している。 ・「ものづくり」「まちづくり」「くらしづくり」が一体となって市民が幸せを感じることが出来るまちづくりを積極的に推進する産業観光がある。「つくる産地」から「売る産地」への飛躍を目指し、消費者と直接触れ合うことで付加価値の高いものづくりを促進すると、今回の水害により家屋全壊4件、半壊16件、一部損壊29件、床上浸水79件、床下浸水85件と多大な被害を被り一刻も早く復旧・復興させ伝統産業である越前漆器を蘇らせたい。 ・平成13年よりまちづくり委員会(現在22名)を発足させ、21回開催し全体会議も1回行っている。また、景観についてもアンケートを2回実施し、75件のうち60数件の回答を得ており、住民の意識は高まっている。
課題
・平成4年までは製造品出荷額等は順調な伸びを示していたが、その後は景気後退の影響を受け伸び悩みとなり、平成6年以降はほぼ横ばいのマイナス状態が続いている。また、近年の人口の減少、高齢化の時代において地域活力の維持・創出のため人口の流出を防止できるよう若者が定着できる環境づくりが必要であり、併せて地場産業の保護・育成により産業の活性化を図る必要がある。 ・今回の水害により、多くの貴重な公共施設や民間の財産が失われたが、早期の復興を図ることにより、人心の安定を図るとともに、地場産業の活性化を図りたい。
将来ビジョン(中長期)
・鯖江市都市計画マスタープランにおいて河和田地区のまちづくり方針を策定している。市街地を中心に漆器産業の集積を活かした個性ある「うるしの里」づくりを進めつつ、周辺の伝統工芸拠点などを結ぶ観光ルートの充実、恵まれた自然を活用したレクリエーション空間の充実とネットワーク形成により、魅力ある地域づくりを目指したい。 ・中道は道路幅員が狭く、災害時に対応できない為、道路幅員を4mに拡幅して通行車両の安全走行、歩行者の安全確保を図りたい。 ・当地区は越前漆器伝統産業会館をコアとする回遊性ゾーンであり、メインの中道ゾーンを高質化するとともに、周辺道路を改良・修繕することにより、市民や観光客が安心して楽しみながら歩ける道路をつくりたい。 ・景観づくり推進地区に指定されている中道地区には、地場産業を象徴する特徴ある街並み景観が残されており、美しいまち河和田を後世に継承していきたい。 ・水害によるイメージダウンを避けるため、上記の改革を行って復興のイメージを高めたい。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1 美化活動の回数	回／年	地域内の景観向上を図る為の美化活動(清掃奉仕)の実施回数	美しい景観にふさわしくするための美化活動(清掃奉仕)を、月1回程度に増やし、更なる景観に対する住民意識の向上に努める。	2回	平成16年度	9回	平成21年度
2 緊急車両等の到達時間	分／回	緊急車両や消防自動車等が現場に到達するまでの時間	緊急車両、消防自動車等が狭隘な道路(W≒3.0m)を拡幅(W＝4.0m)することにより現場到着までの時間短縮を図る。	30分	平成16年度	15分	平成21年度
3 来街観光客数	人／年	漆器の里観光の入り込み客の内、当地区に立ち寄る人数	越前漆器伝統産業会館入り込み観光客の増加を目指し、観光の景観誘導ゾーンとして認知を高める。それを足がかりに観光のまちづくりを進める。	15,000	平成16年度	20,000	平成21年度
4 幹線道路の通行止回数	回／年	大雨時に冠水することにより幹線道路が通行止となる回数	幹線道路のうち大雨時にネックとなっている箇所を整備することにより通行止となる回数の減少を目指す。	2回	平成16年度	0回	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1（水害による市民の生活拠点の形成） ・水害により家屋損壊や一部損壊に伴い、家屋外装や生垣等を美しい景観にふさわしい和風にして住環境を整えたい。	まちづくり活動推進事業（提案事業／景観補助、モニタリング、講演等・民間、市） 河川災害復旧事業、道路舗装災害復旧事業、都市災害復旧事業、河川災害復旧事業、（関連事業／県、市）
整備方針2（観光客の誘導） ・越前漆器伝統産業会館の回遊性ゾーンである当地区の観光客誘導を図るため、メインストリートを街なか観光の骨格として位置付け、道路舗装を高質（グレード）化するとともに、周辺道路を改修することにより、「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」の楽しくなるようなゾーンを整備する。	高質空間形成施設（基幹事業／河和田中道線他1路線・市） 公園（基幹事業/中道公園（仮称）・市） 道路（基幹事業／北中戸口線他11路線・市） 地域創造支援事業（提案事業／照明灯設置事業・市）
整備方針3（交通環境の改善） ・交通環境改善の抜本策としてメインストリートを幅員4mに拡幅した道路として整備する。現況道路幅員は狭隘であり、狭い所では3mを切り車両通行時には歩行者の安全が脅かさせるため4mに拡幅して安心して歩ける歩行空間をつくる。 ・道路拡幅と同時に公共下水道も布設して環境改善を目指したい。 ・中道ゾーンにアクセスする幹線道路で交通障害のネックとなっている箇所を整備して環境改善を目指したい。	道路（基幹事業／河和田中道線他1路線・市） 下水道（基幹事業／河和田中道線他1路線・市） 地域創造支援事業（提案事業／流雪溝用送水管布設等・市） 地域創造支援事業（提案事業／北中戸口線消雪事業・市） 地域創造支援事業（提案事業／排水路整備事業・市）
その他 ○街並み形成の誘導を図るための方策について 当地域は平成15年3月に景観づくり地区に指定された。これからの町内景観を高めるためまずは全体計画を定めそのうちの中道沿道ゾーン4h aを設定した。今日まで景観づくりについて、まちづくり協議会を中心に20数回開催し景観誘導のあり方を協議してきた。 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地区では漆器業に携わる人を中心としたまちづくり協議会を組織している。協議会における協議に基づき、まちの維持・管理活動等を継続的に広報で知らせ、新たに区域拡大し市民の景観に対する啓発活動を行う予定である。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、市役所とまちづくり協議会が協働して毎年、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのアンケートやモニタリングを実施する。その成果については随時、市民に情報公開する。また講師を迎えて講演を実施して啓蒙を図る。	